

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 0 回新相模原市観光振興計画推進会議				
事務局 (担当課)		経済部商業観光課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)				
開催日時		平成 2 5 年 1 0 月 1 7 日 (木) 午前 1 0 時 3 0 分 ~ 正午				
開催場所		相模原教育会館 小会議室				
出席者	委員	6 人				
	その他	0 人				
	事務局	1 1 人 (商業観光課長、他 1 0 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 報告事項 報告 1 第 9 回新相模原市観光振興計画推進会議の結果について 3 議題 議題 1 新相模原市観光振興計画の中間見直しについて 4 その他 5 閉会				

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局の発言)

### 1 開会

内藤会長あいさつ

### 2 報告事項

報告 1 第 9 回新相模原市観光振興計画推進会議の結果について

報告 1 について、第 9 回新相模原市観光振興計画推進会議録により事務局から報告を行った。

### 3 議題

議題 1 新相模原市観光振興計画の中間見直しについて

議題 1 について、第 10 回新相模原市観光振興計画推進会議資料により事務局から説明を行った。各委員による意見や質疑、相模原市の各観光主管課長から意見や補足説明等がなされ、最後に会長からの意見及び総評がなされた。

#### 主な意見等

各委員からの主な意見及び質疑応答は、次のとおり。

相模原市は広大であるので、エリアごとに観光のテーマをわけて行っていく必要がある。

人材育成は、非常に大事である。

相模川エリアに関わっているが、体験事業の一つで、参加されている方は若い年代層が非常に多く、求めているものは家族でふれあえる自然である。当初の募集では応募者が少なかったが、最終的にはお断りするような状況であった。

5 回程の体験だが、地域の農家の方の指導を受けながら、ふれあうことがよかったという意見をいただいている。このような事業を一つの体験型観光の例として、見る観光・味わう観光から視点を変えて、特に緑区の地域などは、資源を生かしていくことがよい。

人材育成に関して、一人の人が広いエリアを見ることは難しいので、地域ごとにピンポイントで人材を配置でき、この人はこれが得意な分野というような人を見つけ出せるような方法があればよい。

さがみ縦貫道路が開通し、新しく相模原インターチェンジもできるため、現状のままではいけない。単なる通過ではなく、観光客に降りていただけるような施設な

どが必要である。例えば、土地利用上の規制があると思うが、長野方面などに多い、工場見学をしながら体験するような施設を誘致すると、そこを中心に人の動きがでてくる。また、そのような事例の研究を進めている。

体験で若者が多く求めているものが「家族とのふれあい」とのことについて、中間見直しでは、地域の資源を磨き上げ、着地型観光に力を入れ、可能であれば点ではなく地域が連携して有機的に組み合わせられることを意識して計画に組み込んでいる。

インターチェンジが完成し、さがみ縦貫道路からの誘客に向けた拠点整備の促進については、道の駅のような施設を作る場合も行政が主導して行うものではなく、民間の力を活用できるよう計画としては意識している。

入込観光客数は具体的にはどのような方法でカウントされているか。

施設での宿泊客や観光行事などの地点を決めて、日をわけて調査し、平均を出してカウントしている。

相模原市の観光情報を一元的に受発信できるホームページ機能については具体的な考え方はあるのか。

現状では、相模原市観光協会や地区観光協会のホームページがあり、それぞれにリンクが貼ってある状況である。今後は、相模原市観光協会で全市的な観光情報の発信が必要であり、一つのホームページを見れば全地域がわかるような一元化を図る必要がある。

相模原市観光協会と地区観光協会のホームページについては、将来的に一元化するのか。

まずは、相模原市観光協会のホームページで、ある程度すべてがわかるように構築すべきであり、また、地区観光協会のホームページについては、各団体にて残していただくか考える必要がある。現状の相模原市観光協会のホームページは、行政的な作り方をしているが、さがみ湖プレジャーフォレストの入浴施設やホテルなどの民間の観光資源を、民間的な色合いを入れて発信していく必要がある。

横浜や川崎のホームページは進んでおり、他の政令市のホームページを見ても、相模原市のホームページはものたりないように感じるため、どのように一元化をしていくのか検討していく。

さがみ縦貫道路の拠点の整備・促進とはどういう考え方が。

さがみ縦貫道路の開通により、外からの誘客がこれからの課題になり、市の魅力を知ってもらう必要がある。例えば、休憩や入浴、産品が買える施設があれば車でインターチェンジを降りて立ち寄っていただけると。

市が主体的になるのではなく、民間を誘導するなどの方法でこのような施設の整備を促進する。

さがみ縦貫道路を利用することで、津久井湖観光センターの前が通過道路になっ

てしまうことが心配である。

今は、若者はホームページで観光情報を調べているので、ホームページの充実が必要である。

リニア新幹線の駅が橋本駅にでき、津久井に車両基地ができる。走行中より車両基地の方がよく見えるため、それをいかに観光的に活用し、観光客を呼び込むことを研究すべきである。

リニア新幹線については、車両基地は観光的な活用が重要である。これから基地が完成すれば、そこに誘客するための施設が必要になってくるので、シティセールスや観光的な視点で検討する必要がある。

圏央道について新しくできる区間にサービスエリアはあるか。

ない。

相模原市で降りていただくための方策としては、その手前で降りる選択をしてもらう必要がある、そのためには、手前のサービスエリアでキャンペーンなどを実施しなくてはならない。新東名ができる時も地域の方々がサービスエリアでキャンペーンを実施していたので、検討する必要がある。

リニア新幹線について、鉄道ファンがニッチな層ではあるかも知れないが、非常に多くいる。九州では観光列車に乗るために観光に行くという人が増えてきていることや、通勤に使われている鉄道についても、車両基地を公開する際には、多くの人が集まる。せっかく車両基地ができるのであれば、まだ見えていないことが多いだろうが、それを生かしたことを今から考えていく必要がある。

直接ではないが東京オリンピックが決まり、相模原市や神奈川県でキャンプ誘致をしていくことが発表されるなど、スポーツと観光は全く別のものではないと思う。外国人向けのガイド育成などを計画に記載してあるが、実際のインバウンド誘致も考えたほうが良い。特にこの先の5年間はオリンピック直前まで計画期間に入っているため、かなり人の流れが変わったり、事前の視察や滞在、練習するなど色々な需要が考えられる。オリンピックの本番の際は外国人が大勢東京に来訪し、当然、神奈川県、相模原もエリアになってくる。それに向けた取組を始める必要がある。

前回も話したことだが、他地域との地図がエリアを外れると白黒になることや全く掲載されないなど、見つらくなるため、難しいことだと思うが、連携した地図なども、検討していただきたい。例えば、高尾山と津久井地域の全部がカラーである地図がある方がよい。さがみ縦貫道路が出来るということで、相模川流域の案内小冊子を配るなどの活動はしているようだが、相模原インターチェンジが開通するときにも、愛川や厚木も含めた地域と連携し、活動を行う必要がある。

観光サインについては、一部のエリア別計画における推進は難しく、見直しにより、全市的に検討していくことが示されているが、やはり全市的に行ったほうが良い。色々な観光地を見ると、例えば「何城まで何百メートル」という表記に併せて、

絵が入っているものなどがあり、その土地ならではのサインを見ると、その土地に来たという感覚を得る。相模原市はメインとなる観光地はないが、相模原市全体で統一した観光サインが出来れば、観光ということについて、色々な人が行ってみようと思うことが増えてくると思う。

サービスエリアについては、相模川県央サミットに参加している相模川流域の市町村で、相模原市が事務局となり、流域の自治体の観光資源を紹介した小冊子を作って、海老名サービスエリアで配架している。それについては、一時的なものであるのもので、今後どう継続していくかが課題である。サービスエリアで小冊子などを手に取って訪れたいという気持ちになっていただくような工夫、情報発信が必要である。

相模原市はインバウンドが弱く、外国人観光客の入込観光客数もカウントできていない状況である。他の政令市ではMICEもインバウンドも進んでおり、その部分は相模原市の大きな課題である。基本的施策の中で、マップ、ガイドブック、サインなどを、どのような形で効果的に作成していくかが課題であり、弱い部分を少しでも充実させていくことが重要である。

相模原市は、市内や東京、神奈川県からの来訪者が多く、来訪目的がアウトドアやスポーツ、自然鑑賞が多い。今後は、さがみ縦貫道路もでき、交通アクセスもよくなっていく。都心から一時間程の距離で、「いやし」を求めてやってくる方が多いのではないかと。施策で興味があるのはヘルスツーリズムであり、このような新しい取組を行っていくことが重要である。

相模原市には名所となる場所が中々ないが、地域ごとに様々な観光の資源となるようなものが多く隠されているので、地域資源を磨いて、それを活用していけるような、人材育成などの視点は是非行っていただきたい。

オリンピックについては、神奈川県もこれから一生懸命取り組んでいかなくてはならない。県知事も東京オリンピックに来る方を、外国人も含めて、神奈川県に来ていただく取組を行わなくてはならないと話している。神奈川県も検討していくので相模原市にも協力をお願いしたい。

また、インバウンドについては東京を訪れた方、特に外国人に、県内に来ていただき、神奈川県の魅力を知っていただき、リピーターになってもらうために、エクスカージョンなども少し考えていかなくてはならない。そのことについても、これから県内市町村と協力し行っていきたい。

オリンピックの開催時のみではなく、プレや練習などについても来訪があると思うので、7年後ではあるが、これから取組を実施していかなければならない。

相模原市全体での観光サインの話が出たが、外国人向けのサインについてもオリンピックなどでのインバウンドについて考えていくのであれば、視点として入れていく必要がある。

市の「暮らしのガイド」は9か国語で発行しているが、外国語表記をしている観光ガイドブックやマップは乏しい状況である。サインについては、外国人が多い高尾山などの地域を面でもとらえて回遊性を高めるためには、外国語表記も必要である。観光に来る外国人のために、色々な言語での記載が必要ということ意識する必要がある。外国人誘客のための観光情報の発信ということで、新たに、ホームページやマップ、サインなどを施策の中で早急に対応する必要がある。

相模原市の特徴は、「安・近・短」であり、観光客消費額は箱根などに比べたら3分の1程度である。市の特性を生かした方策を検討する必要がある。

#### 補足説明等

##### 相模原市城山経済観光課

さがみ縦貫道路の相模原インターチェンジは城山エリアにできるということで、観光に是非結びつける必要があるとの御意見をいただいたが、本年6月から検討会を立ち上げ、エリア別計画の津久井湖城山エリアの地域別計画を現在作成中である。城山の近隣には大学が多くあり、法政大学、東京家政学院大学の先生方にも地域別計画の検討会に入っていたり、産官学の連携の中で、地域の観光振興を図っていききたい。近くには、高尾山という大きな観光地や新しくさがみ縦貫道路ができることなどの要素を地域の観光に結び付けていく。

##### 相模原市津久井経済観光課

「いやし」を求めて来訪者が来るという話について、市営の青根緑の休暇村の利用者の比率は、指定管理者の話では、実際の数字ではないが5割くらいが市外の方であり、市内からは、南の地域からの利用者が少ないと感じているという話があった。地域としては当施設を地域の活性化の拠点として生かしていきたいと考えており、地域別計画においても拠点としていくという話がされていた。当施設のホームページを開設しており、他地域からも誘客できるようになればという話があった。

##### 相模原市相模湖経済観光課

11月3日に20回目を迎える小原宿本陣祭が開催されるが、今回は若い委員や麻布大学の学生などを取り入れ、様々な意見を聴取し、趣向を凝らした事業内容を検討している。地域の新しい人の取り込みや多くの人の新しい感覚をいただき、情報発信に注力するというので、HPを立ち上げた。今回は、開催地から離れている南区の方から大名行列への参加の応募があるという効果もあった。相模湖については都内有数の観光地の高尾山が近くにあり、相模湖方面への誘客方法を地域の方々が検討しているが、交通面や車両の関係など課題がある。

また、以前の東京オリンピックの際には、相模湖でカヌー競技の開催をしている

ので、昔の資料を飾るなどのPRを行っており、趣向を凝らして誘客する方法を地域の方々と考えている。

#### 相模原市藤野経済観光課

体験型観光や着地型観光がこれから必要ということについて、前回の会議でもお話ししたが、藤野地域で地元の観光協会に委託したニューツーリズム推進事業がある。12種類の体験ツアーを検討しており、すでに何種か実施し、本日も「ネイチャーガイドと歩いてくつろぎツアー」を開催しており、内容は、藤野の観光資源を生かした取組であり、草木に詳しい先生にお越しいただき、説明いただきながらウォーキングをし、お昼には地元のレストランで食事、最後にはふじの温泉東尾垂の湯につかっていただく企画である。

地域別計画についても地元の観光協会に委託し、陣馬・高尾山エリアを中心に今年度策定中である。地域別計画により、具体的な事業が展開されることを期待している。

中間見直しの中で、藤野に関わるエリア別計画は陣馬・高尾山エリア、相模湖エリア、牧野里山エリアがある。中間見直しでは、平成20年度に策定されてから変わっている状況を踏まえ、名称など現状に即した文言で訂正している。

また、スポーツと観光は関連があるという話の中で、牧野里山エリアの菅井小学校跡を利用し、相模原市名誉観光親善大使である片山右京さんがteamUKYOというベースキャンプを行っている。本年7月にも片山右京さんを中心としたサイクリングの大会が盛大に開催された。そのような、スポーツと観光を生かした取組を藤野地区では行っている。

#### 協議会長による意見・総評

計画の中間見直しのまとめに関しては、すべて見たがよくできている。例えば、計画の策定から5年が経過し、基本的施策に新しく加わったインバウンドの話などは非常に大事なことであり、是非推進していただきたい。

希望であるが、現計画の目標として入込観光客数や観光客消費額があるが、新たに満足度及び再来訪意思を見直し案の目標に追加することはいかがか。この2つは非常に重要である。判断基準として、アンケートで5段階評価をすることは良いが、満足度では「どちらかといえば満足」ではなく「とても満足」、再来訪意思では「機会があれば来たい」ではなく「ぜひまた来たい」の評価が非常に重要である。この評価をあげるためには、ホスピタリティの向上など、地元で観光客を受け入れる方が一生懸命取り組まなければならない。満足度については、「とても満足」を、現状の38.0%から、非常に厳しいが50%を目指し、再来訪意思については、「ぜひまた来たい」の現状の53.5%は非常に高い評価であるが、70%を目指して

努力していただきたい。今後、目標数値は事務局で検討し、努力目標として追加していただきたい。このような目標を加えることで、地元の人もやる気が出ると思う。日本の観光事業の例で、軽井沢から全国に色々な施設を広げた星野佳路さんの考えは、アンケートでの最高評価の部分をどのように伸ばすかを考え、経営的によい所は従業員にアンケート結果を見せて、段々レベルが上がっていくとのこと。相模原市も是非チャレンジしてほしい。

#### 事務局まとめ

見直しの内容については大きく指摘はなく、オリンピックやリニア新幹線など新しい要素があり、相模原市を取り巻く状況が今後大きく変動していく中で、観光は注目度も高く、このようなことを踏まえた計画や実際の取組を行っていくことは重要である。

また、目標の追加については、項目として前向きに検討したい。

#### 4 その他

事務局より11月21日に開催される神奈川移動観光大学シンポジウムの案内を行った。

#### 5 閉会

秋本副会長あいさつ



## 新相模原市観光振興計画推進会議委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専 門 家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
市 民 ・ N P O	小林 幸治	小原宿活性化推進会議	会長		欠席
	内藤 久子	ふじの里山くらぶ	理事		欠席
関 連 団 体	秋本 昭一	相模原市観光協会 (津久井観光協会)	理事 (会長)	副会長	出席
	高瀬 秀明	相模原市観光協会	事務局員		出席
	矢口 五郎	津久井地域商工会連絡協議会 城山商工会	事務局長		出席
民間事業者	山田 新一	神奈川中央交通(株)	相模原 営業所長		欠席
	向田 淳	(株)JTB コーポレートセルス 法人営業町田支店	支店長		出席
行政関係者	田中 陽子	神奈川県産業労働局 観光商業部観光課	副課長		出席